小野 あずさ

最近の新居と心境

昨年は、私にとって仕事面でも生活面でも、大きな変化と発見があった年でした。仕事面では、演劇やコンテンポラリーダンス以外のお仕事、たとえばファッションショーや展示会、映画撮影などにも関わらせていただきました。カメラレンズを通したときに見える照明と、裸眼で見る照明との大きな違いや、Director of photographyというカメラと照明を極めたプロフェッショナルたちとの出会い、映画撮影用と劇場用の機材+人材の違いなど、たくさんの発見がありました。

生活面においては、数年住んでいた家からの引っ越しでした。誰にとってもそうだと思いますが、自分のスペースというものはとても大事です。最近引っ越した新しいフラットは、キッチンとリビングルームのみをフラットメートとシェアするフラットシェアです。フレンドリーな、フィリピンファミリーとシェアさせていただいています。自分の部屋に冷蔵庫や、風呂場が付いているので、前の家に比べて、プライベートがあり、時間を気にせずお風呂に入れたり、自分の部屋は他のフラットメートの部屋から離れているので、音楽も聞きたい放題、住んでいるエリヤも静かなので熟睡できるという、今までで一番快適なフラットに出会えてとても嬉しいです。

せっかくなので、ロンドン賃貸物件についても少し触れさせていただきます。この13年間で私は9回ほど引っ越しをしました。その理由はさまざまで、契約期間切れ、家賃上昇、恋愛、長期一時帰国、長期ツアーの仕事、狂ったフラットメート、引っ越したい賃貸が空くまでの仮住居などがありました。もう引っ越しはまっぴらなのですが、違うエリアに引っ越すたびに、新たなロンドンの一面を発見できるといった、ちょっとした興奮はあります。それでも、もうそろそろ一つの場所に落ち着きたいというのが本音です。ここ10年の間に、ロンドンの家賃は全体的に20～30%ほど上がったような気がします。私は部屋探しをするときは、いつも在英日本人向けの新聞やWebsiteで探します。そこに載っている賃貸のオーナーさんは、ほとんど日本人ではないのですが、綺麗好きで落ち着きのある（という印象があるらしい）日本人に、是非住んでもらいたいという考えから、彼らは日系のメディアでテナント探しをしています。物件はピンキリですが、わりと綺麗で値段もお手ごろだったりすることが見つけられ、インチキ臭い物件や怪しい物件は載っていないので、私はいつもMix-BというWebsiteを使います。（ご参考までに：今住んでいるフラットシェア、北ロンドンZoom 3のGolders Greenエリア、水道光熱費カウンシルタックスすべて込で月£650＝¥9万円ほど）これからもっと、物価が上昇するのではないかという心配もあります。

引っ越したフラットのリビングルーム

昨年6月に世界中が衝撃を受けた、ブレグジット（イギリスEU離脱）決定は、まだ直接的には、私に影響を及ぼしていませんが、ヨーロピアンの友人の何人かは、ブレグジットに失望し、イギリスからドイツに引っ越してしまいました。永住権を取った私でも、いつどのような影響が出てくるか分からない状態で、少し不安です。日本が二重国籍を許可する国だったら、今頃イギリスのパスポートを得ていたことでしょう。そうすることで、ここから追い出される確率は、まずなくなるからです。ブリグジット後にロンドン外の劇場で仕事をしたときは、そこで働くイギリス人の、外人（私）に対する態度が必要以上に気になってしまいました。「きっと彼女も彼もブレグジットに投票したのだろうな。自分の仕事を移民に取られたと考えているのではないだろうか…」というパラノイアが頭を巡りました。移民反対派が圧倒的に多かったロンドン外（地方）の人々と一緒に仕事をすることに対して、少し緊張感を覚えました。隣で働いている人から、早くこの国から出て行って欲しいと思われているかもしれないと想像するだけでゾッとします。深読みをしすぎるのもよくないですね。とにかく、どこの国籍だろうと、「この人でないと、この仕事は任せられない」という人材になれれば、イギリス人から顰蹙を買うことも、文句を言われることもないでしょう。もっと頑張らなくては！